

「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」  
推進校実施報告書

- 1 学校名：静岡市立両河内中学校
- 2 実施日時：2018（平成30）年10月24日（水）13:35-14:35
- 3 対象：全校生徒（36名）
- 4 実践形態：ボッチャ指導員およびパラリンピアンとの交流会・実技体験
- 5 派遣指導員：大塚 康夫さん  
(社会福祉法人 静岡市しみず社会福祉事業団 上級障がい者スポーツ指導員)  
派遣アスリート：繁田 一紀さん  
(社会福祉法人 静岡市しみず社会福祉事業団)

6 授業内容：講演、実技

2018（平成30）年10月24日（水）に、静岡市立両河内中学校にて、静岡市しみず社会福祉事業団の大塚康夫さんと、アーチェリーやフライングディスクの選手である繁田一紀さんを講師としてお招きしたオリンピック・パラリンピック教育実践が行われました。実践当日は、大塚さんからボッチャについての説明があり、その後、生徒達は3コートに分かれてボッチャを通して交流を深めました。

両河内中学校では、毎年、近隣の社会福祉施設との交流行事を行っており、多くの生徒が希望して参加しているとのことです。昨年度、その一貫としてボッチャを取り入れた際には、ボッチャのプレーを通して会話が弾むようになった様子や、施設利用者との積極的な交流がみられたといます。そこで今年度は、オリンピック・パラリンピック教育と関連付けながら、より本格的なボッチャの体験会として本実践が行われました。講師の派遣や用具の準備に関しては、静岡市との連携によって実現したものでした。

前年度までに社会福祉施設においてボッチャを経験したことのある生徒は約半数で、残りの生徒は今回の実践での体験が初めてとのことでした。はじめに、上級障がい者スポーツ指導員の大塚さんから、実際のボッチャの様子がVTRによって紹介され、次に、ルールについての説明がありました。ボッチャは、個人戦や団体戦だけでなく、障害レベル別に階級が分かれています。基本的には、白いジャックボールを的とし、そこにどれだけ多くの持ち玉を近づけることができるかを競う、というルールがありますが、得点獲得のための戦術は多様であり、非常に奥の深いスポーツです。

生徒達は大塚さんの説明を熱心に聞いた後、すぐに3コートに分かれてゲームを始めていました。

ボッチャのボールは片手でつかめる程の大きさであるにも関わらず、重さが約275gの革製であるため、大きなバウンドをせず、独特の動きをします。生徒達はその使い方を徐々に理解しながら、ゲームを楽しんでいました。また、車いすに座った状態での投球や、自力での投球が困難な選手のための勾配具（ランプ）を用いた投球ならびにその補助役の体験にも、積極的に取り組んでいました。ゲームの進行とともにボールを投げるコツをつかんでくると、投球の失敗を悔しがる様子や、得点を取って喜ぶ様子も見受けられました。

車いすでのボッチャだけでなく、アーチェリーやフライングディスク等にも取り組んでいる繁田さんからも、投球の際のアドバイスや、得点の計算方法が話され、生徒達はゲーム中にも熱心に耳を傾けていました。

実際に体験した生徒からは、「意外と難しい」等の声が聞かれ、今回の実践がパラリンピック種目を体験し、理解するうえで貴重な機会になっていたことがうかがえました。

交流会の最後には、校長先生から、これから行われる社会福祉施設での交流行事等にも活かしてほしいと生徒達にお話がなされるとともに、講師を務めた大塚さん、繁田さんへのお礼の言葉が述べられました。

総合的な学習に位置付けられている「福祉」の時間に関連付けて行われた、今回の両河内中学校でのオリンピック・パラリンピック教育の実践は、地域と連携することで、今後も継続的に実施していくことが期待されています。

## 7 講演の様子



【ルール等説明①】



【ゲーム①】



【ゲーム②】



【ゲーム③】



【ゲーム④】



【ゲーム⑤】